

パラオ共和国 訪問概要

<目的>

令和4年8月26日に「沖縄県とパラオ共和国との友好関係強化に向けた覚書」を締結して以降、初めてパラオを訪問し、同国のグスタフ・アイタロー国務大臣をはじめとする閣僚及び同国上下院議長等を表敬訪問する。また、県内企業の有する様々な技術を紹介するセミナーやネットワーキングを目的とするレセプションの開催を通じて、今後の協働の取り組みが円滑に進むよう、関係者間の交流を深める。

<日程>

令和5年1月16日（月）から17日（火）まで

<概要（1月16日）>

（1）戦没者慰霊碑への献花

コロール島にある戦没者慰霊碑を訪問しました。

訪問団を代表して玉城知事が慰霊碑へ献花を行い、先の大戦で亡くなられた沖縄県関係者をはじめ多くの方々へ哀悼の意を表しました。



(2) 在パラオ日本大使館訪問

玉城知事ほか沖縄県パラオ訪問団 15 名は、在パラオ日本国大使館を訪れ、折笠弘維大使及び JICA パラオ事務所の小林龍太郎所長を表敬訪問しました。

はじめに、折笠大使より、知事一行のパラオ訪問を歓迎するとご挨拶をいただきました。

続いて、玉城知事より、今回のパラオ訪問に際して、日本大使館と JICA の皆様に様々な便宜を図って頂いたことに謝意を述べるとともに、沖縄とパラオとの MOU について、「今後、農業・水産分野、環境・公共インフラ・再生可能エネルギー分野等様々な分野で協働していくので、引き続きお力添えをお願いしたい。」と述べました。

この他、折笠大使よりパラオの概況及び日本とパラオとの歴史的な関係について、さらに小林所長より JICA の協力事業の実施内容等についてご説明をいただき、今後の交流等について意見交換を行いました。



(右:折笠 弘維 在パラオ日本国特命全権大使)



折笠大使及び小林所長との記念撮影

(最前列右から 2 人目:小林龍太郎 JICA パラオ事務所長)

(3) グスタフ・アイタロー国務大臣表敬

玉城知事ほか訪問団 32 名は、大統領府オフィスを訪れ、グスタフ・アイタロー国務大臣を表敬しました。

はじめに、玉城知事から、今回の表敬受入れについて謝辞を述べるとともに、「パラオ訪問を楽しみにしていました。去る令和 4 年 8 月 26 日、貴国と沖縄県は、戦前から続く歴史的・文化的な絆を基礎として、より一層の友好関係の強化に向けた MOU を締結しました。今後は更なる友好関係の強化及び人材交流を具体的に進めていくことが重要となりますので、今後、パラオと沖縄の間にワーキングチームを設置し、農水産業や環境公共インフラ分野など様々な分野で協働したい。」と述べました。

続いて、アイタロー国務大臣からパラオ訪問を歓迎する旨の挨拶があり、同大臣は、「(ワーキング会議の設置について) とても素晴らしいことです。MOU が具体的に進むことは喜ばしいことです。本日、再生可能エネルギーや土木、インフラの技術専門家も来ていただいたことにも感謝します。インフラ整備はパラオの重要な課題の一つです。また、若者の人材交流や教育も重要と考えており、この点についても協力をお願いしたい。」と述べられ、ワーキングチームの設置についてパラオと沖縄の双方で合意しました。

これに対して、玉城知事は、「若者技術交流についても、琉球大学等と連携しながら進めていきたい。」と述べました。

さらに、漁業関係について、沖縄の漁船が長きにわたりパラオ水域で操業させていただいていることに謝意を述べるとともに、今後の操業継続についても配慮をお願いしました。

この他、MOU の進展を図りつつ、今後の展望として、沖縄県内市町村とパラオ 16 州のうちのいずれかの州との間での姉妹都市締結の可能性についても話が及びました。



(4) 上院議長及び下院議長表敬

玉城知事ほか訪問団 32 名は、コロールの OEK サテライトオフィスを訪れ、パラオ共和国議会のホッコンス・パウレス上院議長、サビノ・アナスタシオ下院議長らを表敬しました。

はじめに、玉城知事から、今回の表敬受入れについて謝辞を述べるとともに、「去る令和 4 年 8 月 26 日、貴国と沖縄県は、戦前から続く歴史的・文化的な絆を基礎として、より一層の友好関係の強化に向けた MOU を締結しました。MOU を具体的に進めていくことが重要となりますので、今後、パラオと沖縄の間にワーキングチームを設置し、農水産業や環境公共インフラ分野など様々な分野で協働したい。」と述べました。

さらに、漁業関係について、沖縄の漁船が長きにわたりパラオ水域で操業させていただいていることに謝意を述べるとともに、今後の操業継続についても配慮をお願いしました。

続いて、パウレス上院議員よりご挨拶があり、「長年こうして直接お会いできる日が来ることを待ち望んでいた。いよいよ MOU に基づいて交流が始まることを非常に嬉しく思う。」と述べられました。

両議長及び各議員からは、MOU に基づく交流が動き始めることについて期待する発言があり、パラオにおいては食の安全保障分野が重要な課題となっていること、医療分野での連携、さらにはパラオには沖縄にルーツを持つ者が多くそのルーツを辿ることについて協力をお願いしたいなどの発言があり、今後の協力や人材交流等について意見交換が行われました。



(前方左：ホッコンス・パウレス上院議長 前方右：サビノ・アナスタシオ下院議長)

(5) 閣僚表敬

玉城知事ほかパラオ訪問団 32 名は、コロールの文化センターを訪れ、先のアイタロー國務大臣はじめ、ウドウ・センゲバウ副大統領（兼法務大臣）、ニライベラス・メトゥール人的資源・文化観光・開発大臣、スティーブン・ビクトル農業・漁業・環境大臣、チャールズ・オビアン公共基盤・産業大臣、ガーファル・ウエルベラウ健康・福祉サービス大臣の主要 6 名のパラオ共和国閣僚を表敬しました。

はじめに、玉城知事から、今回の表敬受入れについて謝辞を述べるとともに、
「沖縄県内の団体や企業の皆様と共にパラオを訪問することができ大変うれしく思います。去る令和 4 年 8 月 26 日、貴国と沖縄県は、戦前から続く歴史的・文化的な絆を基礎として、より一層の友好関係の強化に向けた MOU を締結しました。友好関係の強化および両地域の発展のため、MOU を具体的に進めていくことが重要となります。今後、パラオと沖縄の間にワーキングチームを設置し、農水産業や環境公共インフラ分野など様々な分野で協働したいと考えている。」と述べました。

さらに、漁業関係について、沖縄の漁船が長きにわたりパラオ水域で操業させていただいていることに謝意を述べるとともに、今後の操業継続についても配慮をお願いしました。

続いて、センゲバウ副大統領よりご挨拶があり、

「本日はとても多くの方がいらっやって、感謝しております。本日お越しの皆様が MOU に基づいて協働の取組みを進めていくための重要なパートナーだと認識しています。今後、我々の絆をより強固なものにしていきたい。」と述べられました。

さらに、関係大臣よりご発言がありました。

ビクトル農業・漁業・環境大臣は、

「長年にわたり、漁業での入漁・協力関係が続いていることに感謝している。また、MOU に基づき、パラオからの漁業研修生を受け入れていただき感謝いたします。本日午後には、JICA よりミバエに関する専門家がいらっやった。沖縄県におかれても、ミバエの防除技術等について引き続き協力をお願いしたい。」

「昔、沖縄から来た移民の方々から多くの技術を学んだように、MOU を契機にその関係を再び構築し、双方でメリットのある関係を築きたい。」

と述べられました。

続いて、メトウル人的資源・文化観光・開発大臣より、

「観光分野における協力のメニューとして、人の流れを共有するというところもあるかもしれない。例えば、沖縄にはクルーズ船が多く来訪するということですので、そういった面でも学ぶべきことが多いだろうと考えています。また、(パラオの観光振興について)地域の文化に根差した観光業の構築が必要と考えている。沖縄はそうして発展してきたと聞いており、この点についても学ぶべき点があると考えている。」と述べられました。

また、会議に同席された、駐日パラオ共和国大使館のピーター・アデルバイ大使は、昨年開催された「世界のうちなーんちゅ大会」にご臨席いただいた経験を引き合いに出されて、「パラオ人も米国やサイパン、グアムなどに散らばっており沖縄と似たようなところがある。パラオ国でも同じような取り組みができるのではないかと考えている。今後も意見交換をさせていただきたい。」と述べられました。

この他、県内の漁業団体よりパラオEEZ水域におけるマグロ漁の操業継続について、土木関係団体の代表者より、沖縄が長年に渡って培ってきた土木技術を活かしパラオの発展に貢献したいといった発言がなされました。



<概要（1月17日）>

（1）視察訪問

玉城知事ほか訪問団は、浄水場、太陽光発電施設、アイライ州のバイ（伝統建築物）、旧日本海軍通信基地跡、スーパーマーケット、パラオ共和国海洋資源局及びベラウ沖合漁業組合の7カ所を視察訪問しました。

アイライ浄水場

はじめにピーター・アデルバイ駐日パラオ特命全権大使より、「昨年うるま市の浄水施設を視察した際に、発電機能も合わせた施設があり、是非参考にしたいと考えております。関係者のアドバイス等いただきたい。」とコメントがありました。

現場では、浄水場の施設長から施設に関するご説明があり、水道関連や発電技術に関する意見交換が行われました。



太陽光発電設備（パラオ空港）

日本の支援により整備された設備で、パラオ空港の駐車場の屋根に太陽光パネルを設置し発電しており、パラオ空港の使用電力の20%程度をまかなっていると説明がありました。訪問団メンバーから施設の運用状況などについて質問がありました。

アイライ州のバイ

約200年前に部族の集会場として使用されていた伝統的建築物を視察。当時の伝統文化について説明を受けました。



旧日本海軍通信基地跡

戦時中に旧海軍が通信基地部として建設した建物が廃墟として残っており、当時の戦車など戦争遺跡を視察しました。



Super Center Mall

最近オープンした、パラオで最も大きなショッピングモール。生鮮品から自動車まで様々な商品が扱われています。視察時には、パラオ近海でとれた鮮魚も販売されており、直接漁業者から購入しているとのことでした。



パラオ共和国海洋資源局

資源局の専門員より、シャコ貝の種苗生産施設やナマコの種苗生産技術開発の取組み等について説明を受けました。シャコ貝について、地元では刺身等で利用され、近年は海外向けの観賞用としての需要が高いこと、ナマコにレモンを絞って生で食べる習慣もあるとのことでした。



ベラウ沖合漁業組合

ベラウ沖合漁業組合では、テイトン組合長より、伊良部漁業協同組合の漁業者による漁業技術研修の成果もあり、少しずつではあるが水揚げできるようになっており、島内にカツオが流通するようになったと報告があり、今後、更なる漁獲技術や鮮度保持技術の向上に向けて、沖縄の漁業者の協力をお願いしたいとのことでした。



(2) 沖縄 MOU セミナー

パラオ側からアイタロー国務大臣をはじめとする政府関係者、パラオ議会、経済・環境・教育の各分野の関係者、沖縄側からは、玉城知事ほかパラオ訪問団 32 名が参加して、沖縄 MOU セミナーを開催しました。

はじめに、玉城知事より「MOU はパラオと沖縄の双方が有する技術・人材・資源を活用して様々な課題に取り組んでいく、プラットフォームの役割を担うものと考えている。今後、様々な交流を通じて、パラオと沖縄双方の発展のため、未来志向の取り組みを推進していきましょう。」と開会の挨拶を述べました。



次に、アイタロー国務大臣から「玉城知事から大変心強いご挨拶をいただき、ありがとうございます。本日はパラオ側からもパラオ短期大学、商工会など、多くの民間企業の方に会場にお越しいただきました。有意義な時間にしていきましょう。」とご挨拶を述べられました。



続いて、パラオ側のビクトル農業・漁業・環境大臣から「パラオ共和国における食品分野への戦略的投資について」と題し、パラオの食料自給を見据えた農水産業の振興計画について、プレゼンテーションをしていただきました。



また、沖縄県側から、(一社) 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 山中亮 理事より「環境に配慮したインフラ整備について」と題して、県内企業が有する環境に配慮した土木技術（バイオマス燃焼灰など自然循環型の資材を活用した泥土改良剤や周辺生態系へ配慮した在来植物によるのり面緑化事例等）や島嶼圏ならではの土木技術（塗装鉄筋や電気防蝕等の

塩害対策等)の紹介を行い、最後に、シードおきなわ合同会社 島袋清人 最高経営責任者社長から「島嶼圏における持続可能な再生可能エネルギー普及策について」と題し、パラオが掲げる再生可能エネルギー普及率 45%の目標実現に向けて、沖縄電力グループとして取り組んできた30年に及ぶ実績・ノウハウ・実行力の展開によって貢献することができるという主旨から、プレゼンテーションを行っていただきました。

その後のレセプションも含め、関係者間で活発な意見交換が行われました。



一般社団法人 沖縄県測量建設コンサルタンツ協会 理事 山中 亮 氏



シードおきなわ合同会社 最高経営責任者社長 島袋 清人 氏

(3) ネットワーキング（レセプション）

パラオ側からアイタロー国務大臣をはじめとする政府関係者、経済・環境・教育の各分野の関係者、さらに現地に在住されている沖縄県系人の皆様、沖縄側からは、玉城知事ほかパラオ訪問団 32 名が参加して、ネットワーキングを目的とする MOU 締結記念レセプションを開催しました。

玉城知事、アイタロー国務大臣から挨拶があり、その後、活発な意見交換、交流が行われました。



沖縄県とパラオ共和国は、今後、それぞれの有する技術や人材等を生かして、双方の持続的な発展のため、交流や協力の取組を推進してまいります。